

令和元年度 第1回学校評価(自己評価)の結果について

令和元年9月

1 評価方法

7月・・・全児童に「学校生活(児童)アンケート」を実施する。

7～8月・・・児童アンケートの結果を参考にし、全教職員が設定した目標の達成状況や取組について自己評価を実施する。

○ 教職員アンケート(児童アンケートの項目との整合性に留意)

○ 自由記述

8月・・・自己評価の結果と今後の改善方策をまとめる。

2 アンケート結果

4:よくあてはまる 3:ややあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:全くあてはまらない

番号	対象	質問項目	平均
1	児童	学校に来るのが楽しい。	3.9
	教職員	教育目標「豊かな心で主体的に活動する児童の育成」の実現に向け、効果的な教育活動を実施している。	3.7
2	児童	授業は分かりやすい。	3.9
	教職員	学習課題を明確にし、分かる喜び、共に学ぶ喜びが実感できる授業づくりに努めている。	3.7
3	児童	テストのできなかつたことを見直してできるようにしている。	3.6
	教職員	学力や体力に関する調査等の結果を指導に生かしている。	3.1
4	児童	家で毎日、読書や宿題をしている。	3.8
	教職員	読書や家庭学習の習慣付けに努めている。	3.3
5	児童	ねばり強く体力づくりに励んでいる。(外遊び、すもう、水泳、陸上、マラソン、なわとびの練習などを含む。)	3.7
	教職員	体力の向上と強い意志力を育む体育的活動に努めている。	3.3
6	児童	友だちはやさしく、なかよく遊んでいる。	3.8
	教職員	子どもの人間関係に配慮し、いじめや差別を許さない意識や態度を育てている。	3.7
7	児童	進んで仕事をし、将来の夢にむかってがんばっている。	3.8
	教職員	様々な職業や勤労の大切さを理解させ、進んで働こうとする意欲や自分の将来の夢に向かって努力する態度を育てている。	3.1
8	児童	学校の施設は安全に使い、きれいで気持ちが良い。	3.9
	教職員	学校施設の安全面に気を配り、環境の整備、美化に努めている。	3.5
9	児童	「早ね・早起き・朝ごはん」ができ、手洗い・うがいなどに気をつけている。	3.5
	教職員	規則正しい基本的生活習慣の確立に努めている。	3.6
10	児童	家族や地域の人、友達、先生に元気なあいさつをしている。	3.8
	教職員	子どもが進んで挨拶や会釈ができるように指導している。	3.6
11	児童	先生は自分の話をよく聞いて、困ったときには相談にのってくれる。	3.7
	教職員	子どもや保護者の話をしっかり聞き、個に応じた教育的支援・指導を適切に行っている。	3.7
12	児童	先生は自分のことをほめてくれる。	3.8
	教職員	子どものよい点を見つけ伸ばすように努めている。	3.4
13	児童		
	教職員	学校は働き方改革に積極的に取り組む等、管理職や中堅教職員を中心とした組織的な運営を行っている。	3.8

14	児童		
	教職員	現代的な課題や児童の課題の具体的方策に関する研修に積極的に取り組み、効果を上げている。	3.3
15	児童	浅海小学校には、ほかの学校にないよさがある。	4.0
	教職員	小規模校だからできる行事や活動の充実に努め、浅海愛にあふれる児童の育成に努めている。	3.3
16	児童	運動会・遠足・浅海オレンジタイムや見学・体験学習などの行事、活動は楽しい。	3.9
	教職員	教育活動の充実に向けて、地域や保護者と連携・協力を努め、地域の特性を生かした体験的な学習や活動を実施している。	3.9
17	児童		
	教職員	学校だより・学年だより・ホームページなどで積極的に情報発信している。	3.7
18	児童	パソコンやタブレットを使った学習は楽しく、分かりやすい。	3.4
	教職員	情報機器の活用や展掲示の充実に努め、学習効果を高める教育環境づくりを行っている。	3.4

3 アンケートの考察

- 児童・教職員ともに、項目1・2の数値が高いことから、児童は意欲的に学習に取り組み、楽しく学校生活を送っていることが分かる。
- 教職員項目3の数値がやや低いのは、様々な調査結果を考察するのが2学期からであることが要因だと思われる。考察後、授業改善に生かすよう共通理解しなければならない。
- 項目4では、児童と教職員の数値に差がある。家庭学習の定着に個人差が見られるため、教職員の数値がやや低めになったと考える。
- 教職員項目7のキャリア教育の数値が低い。教職員の意識として、総合的な学習の時間でキャリア教育に取り組むのは3学期だということがあるためだと考える。
- 教職員項目14の数値がやや低いが、2学期から実施される授業研究を通して研修を深めたい。
- 児童項目15では、全員が「4よくあてはまる」を選び、自分たちの住んでいる浅海にその魅力を感じていることが分かる。浅海愛にあふれる地域の土壌が、児童にも反映していると思われる。
- 項目16は、児童・教職員ともに高い数値となっている。地域の特性を生かすための教職員の日々の努力が児童の数値にも表れていると考える。

4 今後の改善策

- キャリア教育については、教育活動全体を通して行われるという教師自身の意識を高めていく必要がある。学級における係活動や高学年における委員会活動など、日々の児童の活動の中で勤労の大切さを理解させたり、役割・責任を果たす達成感味わわせたりしてキャリア教育の充実を図りたい。
- 来年度の新学習指導要領完全実施に伴い、プログラミング教育の導入などICTを活用した教育は、今後さらに重要になってくる。授業の中で、積極的なタブレットPCの活用やプログラミングの導入を図りたい。そのために、本校の授業研究だけでなく、市教研2年次の他校の授業研究も通して教職員のスキルを高め、授業改善に努めたい。
- 家庭学習の定着については、より一層の家庭との連携を図る必要がある。今後も家庭の協力を得ながら指導していきたい。
- 2学期初めに、学力調査や新体力テストの結果を考察し、児童の課題を明確にした。学力面では、特に「聞く態度・聞く力」が課題であるとの共通理解を図った。今後、「聞く態度・聞く力」の育成に力を入れたい。そのための具体的方策として、朝の時間を活用した学級ごとの取組を実践することにした。短いサイクルで成果や課題を話し合い、方策を改善していきたい。